

再 評 価 調 査 書

整理番号	2
担当部課名	土木部道路建設課 県道担当

1 事業概要

(1) 事業名	地方道路整備事業 筑西幹線道路整備事業	(2) 名称	主要地方道 筑西三和線バイパス
(3) 事業主体	茨城県・結城市・八千代町	(4) 箇所名	結城市山王～八千代町成田
(5) 採択年度	平成24年度	(6) 完成予定年度	令和6年度
(7) 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・現道区間の交通混雑の緩和を図る。 ・県西地域の交流・連携を支える交通体系の構築を図る。 ・北関東自動車道などの整備効果を活かした物流網を形成し、県西地域への企業誘致等の推進を図る。 		
(8) 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業延長 L=6,000m (県事業 5.2km、結城市事業 0.4km、八千代町事業 0.4km) ・計画幅員 W=23.5m (暫定2車線) ・用地買収、道路改良工事、舗装工事、橋梁工事 		

2 再評価の理由

(1) 再評価の理由	再々評価 (完成年度及び事業費の変更)	(2) 当初完成予定	令和4年度
(3) 未着工・事業が長期間要している理由	盛土構造について湛水被害を懸念する地元関係者からの理解が得られないことや、軟弱地盤上において道路を築造する際の対策工事に関して所定の強度発現に不測の期間を要したことから事業が長期化している。		
(4) 前回指摘事項に対する対応状況 (再々評価の場合)	委員会の意見	対応状況	
	継続することが妥当である。	委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って部分供用による効果の早期発現に努めながら、事業を進めた。	

3 事業計画の変更

(1) 完成年度の変更	令和4年度 (2022年度) → 令和6年度 (2024年度) 2年延長
	【理由】 盛土構造について湛水被害を懸念する地元関係者からの理解が得られないことや、軟弱地盤上において道路を築造する際の対策工事に関して所定の強度発現に不測の期間を要したことから事業が長期化している。
(2) 事業内容の変更	【理由】 -
(3) 事業費の変更	6,700百万円 → 10,375百万円 3,675百万円増
	【理由】 「湛水 (たんすい) 被害低減工法の追加」、「軟弱地盤対策工の増加」、「土質条件の不適合等による工事中盛土材の入手困難への対応」に伴って工事費が増加したことによる。

4 進捗状況と今後の見通し

(1) 事業進捗状況	全 体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量 (m)	6,000	3,000	3,000	50.0%
事業費	工事費	7,926	868	73.2%
	用地買収補償費	2,449	65	98.8%
	計 (百万円)	10,375	933	58.0%
(2) 関連事業の進捗状況	結城市 (0.4km) 進捗率 100% 八千代町 (0.4km) 進捗率 99%			
(3) 今後の見通し	工 事	用 地 等		
	残区間である、結城坂東線から終点 (八千代町側) までの工事を推進し、早期全線供用を目指す。	-		

5 評価内容

(1) 事業の必要性	<p>当路線は、筑西地域の主要な幹線道路であり、北関東自動車道と一体となって、県西地域と県央地域を結び、広域交通拠点のネットワーク (筑西幹線道路) を構築する路線の一部である。</p> <p>本バイパスの整備により、現道の朝夕の交通混雑緩和が図られ、円滑な交通流動が確保されるとともに、筑西市・八千代町・古河市の連携強化による地域産業の活性化が図られ、企業誘致等の推進が期待できることから事業の必要性は高い。</p>					
	社会情勢等の変化に関する指標 1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標 2	計画時の状況	現時点での状況
	筑西三和線 24時間交通量 (結城市山王)	10,576台 /24時間 (H17 センサス)	9,461台 /24時間 (H27 センサス)			
(2) 事業の有効性	<p>本事業の実施により、下表のとおり通過時間が約5分短縮されるとともに現道の交通量が約40%減少することから、県西地域の交通利便性の向上に有効である。</p>					
	効果予測に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標 2	事業なし	事業あり
	全線の通過時間	12分	7分			
	効果算定要因に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標 2	事業なし	事業あり
	計画道路将来交通量 (H42)	-	7,400台 /24時間	現道将来交通量 (H42)	9,800台 /24時間	5,900台 /24時間
(3) 事業の効率性	<p>ア) 主な効果 (B)</p> <p>① 当該路線の整備により結城市山王～八千代町成田までの6.0km区間及びその周辺道路において、走行時間の短縮により10,610百万円の縮減効果が見込まれる。</p> <p>② ①と同区間において走行経費の短縮により2,100百万円の縮減効果、及び交通事故の減少効果120百万円が見込まれる。(合計12,840百万円)</p> <p>③ 古河から筑西区間の混雑緩和が期待できるとともに地域の活性化に大きく寄与する。</p> <p>イ) 主な費用 (C)</p> <p>① 事業費 11,040 百万円 ② 維持管理費 470 百万円 計 11,510 百万円</p> <p>主な効果のうち貨幣化が可能なア、イについて事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C = 1.12</p>					
(4) 地元の意向	・筑西幹線道路整備促進期同盟会 (会長: 筑西市長、関係市町: 古河市、桜川市、結城市、八千代町) から早期整備の要望を受けている。					
(5) コスト縮減や代替案立案の可能性	・近隣工事の建設発生土の有効活用によりコスト縮減を図る。					

6 対応方針

現道の交通量の緩和を図り、円滑な交通流動を確保するとともに、地域間の連携強化による産業の活性化及び企業進出の促進などの効果が期待できることから事業を継続したい。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し事業を進める。

